

フォーカス

“つながる”の効果

—電子カルテ、オンライン診療—

ルポ

病院からクリニックへの転換をきっかけにICT化推進、 地域に根ざした「かかりつけ医」をめざす

國崎 真弓 日立ヘルスケアシステムズ株式会社 経営戦略本部



ほだかクリニック

院長：山崎 穂高 先生 (医学博士)

〔日本外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器外科学会認定専門医、
日本消化器内視鏡学会認定専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医〕

住所：栃木県佐野市北茂呂町 10-7 診療科目：胃腸内科、内科、外科、皮膚科、泌尿器科

栃木県佐野市に開院して40年間、長きにわたり地域の医療を支えてきた佐野中央病院は、2018年8月に病床を廃止、ほだかクリニックとして新たなスタートを切りました。

今回は、病院からクリニックへの転換をきっかけに電子カルテ「Hi-SEED^{※1} W3 EXV (日立ヘルスケアシステムズ株式会社製)」、X線診断装置「CLINIX^{※2} III (株式会社 日立製作所製)」、超音波診断装置「FUTUS^{※3} (株式会社 日立製作所製)」をご導入いただいた山崎穂高先生を訪問し、お話を伺いました。



佐野市は関東平野の北端、栃木県南西部に位置し、東京から車で1時間という立地から、栃木県の中でも人口の集まる地域です。

佐野駅から広がる街並みは碁盤の目のように整備され、現在も城下町としての面影が残ります。観光スポットとしては佐野厄除け大師や佐野プレミアム・アウトレット^{*4}が有名ですが、ラーメンの街としてもその名は全国に知られ、ご当地キャラ「さのまる^{*5}」は2013年にゆるキャラ^{*6}グランプリの王者に輝いています。

病院からクリニックへの転換

—2018年8月に病院からクリニックへと転換されましたが、その理由をお聞かせください。

2014年4月に群馬大学医学部附属病院から父が院長を務める佐野中央病院(72床)に戻り副院長に就任しましたが、その3か月後に父が病に倒れ、突如として私が院長を引き継ぐことになりました。

診療報酬改定の影響などから、200床未満の中小病院は厳しい環境に置かれています。当時、佐野中央病院も状況は非常に厳しく、このまま経営を継続すべきか悩みました。

しかしながら、迷った際は初心に戻ることが大切だと感じ、思い切って病床を廃止し、地域に密着したクリニックをめざし新たなスタートを切ることとしました。

地域の医療を守る「かかりつけ医」

—クリニックの理念として「患者様中心の医療、安全で質の高い医療、地域に開かれた医院、愛し愛される医院」とありますが、先生の医療方針をお聞かせください。

患者さんに近い、相談しやすい存在でいたいと考えています。症状が出て心配なときに「まずは、『ほだかクリニック』の先生に相談してみよう」と思ってもらえるような。

また、内視鏡専門医としては地域の基幹病院との連携も重要です。佐野市民病院をはじめとした連携医療機関と協力しながら、地域医療連携体制を構築しています。

患者さんの信頼を得るためには、丁寧な診察と適切な説明が欠かせません。その点で、今回導入した画像ビューア一体型の電子カルテシステム「Hi-SEED W3 EXV」は大いに役立っています。治療前後の撮影画像を並べながら説明すると、一目瞭然で変化を示すことができます。患者さんへの説明において、数段説得力が増したと考えています。

おかげさまで最近は特に若い方の受診も口コミで増えています。以前は高齢者の割合が非常に高かったのですが、現在は幅広い年齢層に受診いただいています。

クリニックに転換し、身軽になった効果もあるのではないのでしょうか。

—クリニックへの転換をきっかけに電子カルテ導入をお考えになった理由をお聞かせください。

群馬大学医学部附属病院等での勤務医時代、各種メーカーの電子カルテを使用していましたので、特にメーカーにこだわりがあるというわけではなく、漠然と電子カルテの必要性を感じていました。

父が診療現場から離れたこと、また、病院からクリニックに転換し病棟管理の必要もなくなったこと、などから電子カルテ導入に踏み切りました。

すでにCR(Computed Radiography)を導入し、X線画像をデジタル化していましたので、こだわったのは電子カルテと画像ビューアが2モニター1キーボードの一体型であるということです。先ほど申し上げたとおり、患者さんへの丁寧な説明には画像ビューアが欠かせませんが、電子カルテと画像ビューア、それぞれにキーボードとマウスがあり、作業ごとにそれらを持ち替えるのでは効率がよくありませんし、スペースも取りますから。

電子カルテ「Hi-SEED W3 EXV」

—今回、日立ヘルスケアシステムズの「Hi-SEED W3 EXV」を採用された理由をお聞かせください。

まずは画像ビューアとの一体型である点を評価しました。いくつかの電子カルテを検討しましたが、この条件を満たす製品はそれほど多くありませんでした。

また、同じタイミングでX線診断装置、超音波診断装置、心電計、内視鏡の入れ替えも検討していましたので、これら機器との親和性も重要なポイントでした。

最終的には昨年7月に開催された国際モダンホスピタルショウ^{*7}2018を見学し、いくつかの製品を自分の目で比較し、確認しました。

結果としては製品品質と価格に加え、地元密着型のフォローをしていただけるスタッフがいる安心感、アフターサービスの充実も含めトータルで評価し、日立さんの製品を選びました。

やはり何かあったときにすぐ駆けつけてもらえる安心感は、医療従事者にとってありがたいものです。

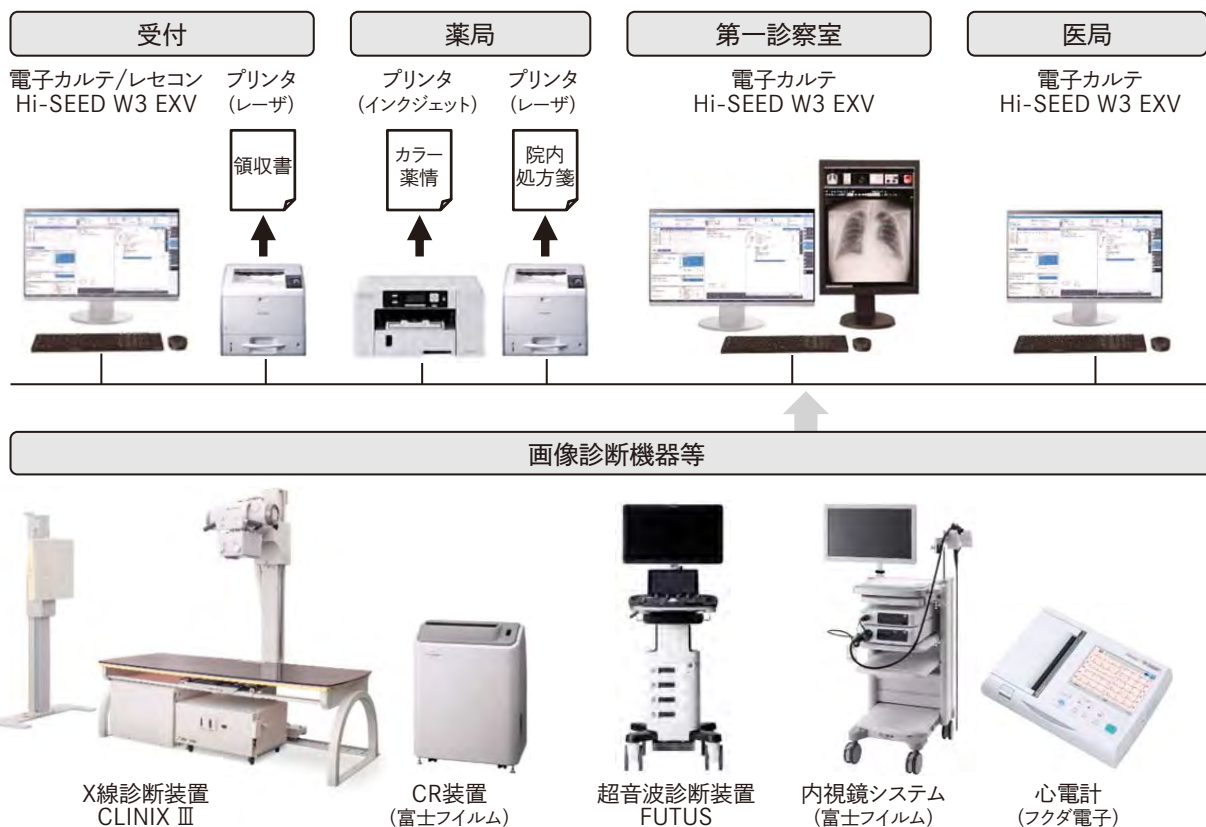
電子カルテ導入後の感想

—電子カルテを導入されて半年経過しました。導入後の感想をお聞かせください。

紙カルテと比較し、残したい情報を適切に残すことができるようになったと感じていますし、患者さんへの説明もスムーズです。

電子カルテの一とおりの操作は問題なくできていますが、まだ有効な機能を十分に使いこなしているとは言えません。使わずにいる便利な機能もたくさんあるはず。ぜひ、改めて操作レッスンをお願いしたいと思っています(笑)。

ほだかクリニック様 システム構成図



同時に導入したX線診断装置「CLINIX III」と超音波診断装置「FUTUS」、もともとあったCRとの画像連携は非常にスムーズで、今のところ大変満足しています。

また、思いもよらず良かったのが、レセプト作業が楽になったことです。レセコン+紙カルテの時代と比較し、非常に効率的になりました。レセプトチェックシステム「べてらん君^{*8}」の効果も大きいと考えています。

強いて要望するならば、画像とレポートの連携機能があるとより作業がしやすくなりますし、レポート用の定型文パネルなどがあると、さらに効率化が図れるのではないのでしょうか。

今後の展望

—ICT(Information and Communication Technology)の導入による効率化を推進なさるといっていますが、具体的な内容をお聞かせください。

現在は佐野中央病院の建物内で診療を継続していますが、今年中に隣接する土地にクリニックを新築し、そちらへ移転する予定です。

新しいクリニックへの移転後は、患者さんのニーズに対応するシステムがあれば、積極的に導入していきたいと考えています。自動精算機やLINE Pay^{*9}等によるキャッシュレス

対応、予約システムの導入もこれからは必要でしょうし、オンライン診療もママさん世代や多忙なビジネスパーソンには便利ではないでしょうか。電子カルテ端末の増設や新たな画像診断機器も必要になるかもしれません。

そういう意味で、今回の電子カルテ導入のタイミングとしては非常に良かったと考えています。本格的にICT化する前段階として、1年間の猶予期間に電子カルテに慣れる準備をしておくことができますから。

今後とも、日立さんにはいろいろと積極的に情報提供してほしいと思います。在宅医療や介護連携も含め、今後、医療環境は大きく変化していきます。日立グループとしての今後のビジョンも含め、共有してください。期待しています。

取材を終えて

常に患者さんを中心に考え、丁寧な診察と適切な説明を心がけていらっしゃる山崎先生。各種の病院口コミサイトでもクリニックの評価は非常に高く、現場に根ざした丁寧な医療サービスの提供により、先生のお気持ちがしっかりと患者さんに伝わっているのだと感銘を受けました。

現在、日本は世界に例を見ない速さで高齢化が進行しており、今後の医療・介護のあり方として2025年を目途に地域包



X線診断装置「CLINIX III」(撮影室)



超音波診断装置「FUTUS」(診察室)



画像ビューアー一体型電子カルテ「Hi-SEED W3 EXV」(診察室)

電子カルテシステム「Hi-SEED W3 EXV」(日立ヘルスケアシステムズ)



- 電子カルテと画像ビューアを1台のシステムに統合、診察に必要な機能を集約
- 検査画像は画像ビューアからドラッグ&ドロップで電子カルテに簡単取り込み
- マウスとキーボードは1セットで対応可能
- 各種日立製モダリティとシームレスに連携

括ケアシステムを構築すべく、病床再編、医療介護連携、チーム医療の推進等が急速に進められています。

その中で、今回取材させていただいた、ほだかクリニック様のような一次医療を担う中小病院、診療所は「地域包括ケアの拠点」として重要視され、その担う役割はとて大きく、重要な位置付けとなっています。

現場で尽力される医療機関の皆さまにとってより良い医療環境をご提案できるよう、日立グループの技術とサポートで今後とも地域に貢献してまいります。



左から、有賀快哉(日立製作所)、山崎先生、中麿正喜(日立ヘルスケアシステムズ)

※1 Hi-SEED、※8 べてらん君は日立ヘルスケアシステムズ株式会社の登録商標です。

※2 CLINIX、※3 FUTUSは株式会社日立製作所の登録商標です。

※4 プレミアム・アウトレット、PREMIUM OUTLETSはプレミアム アウトレット パートナーズ エル・ビーの登録商標です。

※5 さのまるは佐野市の登録商標です。

※6 ゆるキャラは株式会社扶桑社および有限会社みうらじゅん事務所の登録商標です。

※7 国際モダンホスピタルショウは一般社団法人日本経営協会の登録商標です。

※9 LINE PayおよびLINEはLINE株式会社の登録商標です。